

電気銅は輸出増、輸入は減少

自動車生産・販売増、住宅着工も増加

橋本金属 アルミ 橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

五月前半は、インドネシア・フリーポートのグラスベルグ鉱山の労働者数千人がレイオフに抗議する集会を開き、スト入り

していること。四月の米ISM非製造業景況指数は五七・五に上昇、予想の五五・八を上回るなどのプラス材料もあったが、LME銅在庫の急増が嫌気され売り拡大。在庫は三万一、二五〇トン増の二万八千四、九二五トン。その多くが中国からアジアのLME倉庫に出荷したこと、中国の四月の銅輸入が前月比三〇％減の三〇万トン、一、四月の累計輸入量は前年同期比二二・九％減の一四五万トンだった事を嫌気しLME銅相場はDOWN、五月十五日時点で五、五二〇(セツル)と月初価格より二二六・五ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、LME在庫の急増(五%)やトランプ大統領とロシアの一連の疑惑(ロシアゲート)、四月の中国の銅および銅製品輸入量は前年比で四一％減少したこと、世界の銅需給が緩和していることなどのマイナス材料もあったが、インドネシアでフリーポートが運営するグラスベルグ鉱山で、五月一日から始まった労組九、〇〇〇人による三〇日間のストライキをさらに三〇日間延長することを発表したこと、1Qの日本のGDPは前期比〇・五％増、年率二・二％増、五期連続のプラス成長となった好感しLME銅相場はUP、六月六日現在、後半スタート価格から〇・五ドルUPの五、五八六・五ドル。銅建値六七万円円スタート。

◆月間のドル/円レート(TTS)  
一一・八〇→一一・七七(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一六・三％増の七四万九、〇八七台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比六・一％増の二三万七、五二一台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一・九％増の八万三、九七九戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が〇・六％増の三万七、七九五t、スクラップが五・九％減の二万四、五一七t。

輸入

輸入は電気銅が前年比四四・九％減の二、九五t、スクラップが八・二％減の九、六〇二t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比六・九％増の七万〇、七六一t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比〇・三％増の五万六、二〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

四月の四輪車生産台数は七四万九、〇八七台で前年同月比一六・三％増となり、七カ月連続前年同月を上回った。

輸出は三七万一、八二七台で前年同月比〇・七％の増加。

【自動車販売】

五月の国内自動車販売台数(軽除く)は二万三、七、五二二台で前年比六・一％増と、一〇カ月連続プラス。

うち、乗用車六・七％増、貨物二・二％増、バス九・五％増。

【住宅着工数】

平成二十九年四月の住宅着工戸数は八万三、九七九戸で、前年同月比で一・九％増となった。また、季節調整済年率換算値では一〇〇・四万戸(前月比二・〇％増)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で二カ月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅は増となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同月比〇・八％増、季節調整値の前月比では一・六％増)。

(貸家)

前年同月比では一八カ月連続の増加(前年同月比一・九％増、季節調整値の前月比では二・四％減)。(六面へ続く)

# 今月の焦点は米国や中国の動向

(四面より続く)

(分譲住宅)

前年同月比では三カ月ぶりの増加(前年同月比二・九%増、季節調整値の前月比では九・九%増)。

・分譲マンション

前年同月比では三カ月ぶりの増加(前年同月比一・三%増)。

・分譲一戸建住宅

前年同月比では一八カ月連続の増加(前年同月比五・二%増)。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比六・九%増の七万〇、七六一tと、九カ月連続増加。このうち、内需五万七、八一八tで四・三%増と九カ月連続プラス、輸出一万二、九四三tで一・九・九%増と六カ月連続プラス。品種別では、銅条二万二、五一三tで一〇%増と一二月連続プラス、黄銅棒一万六、九〇五tで九・二%増と一二月連続プラス。

【電線】

前年比〇・三%増の五万六、二〇〇t。うち、国内は〇・二%減、輸出は一八・八%増。出荷部門別では、通信一・一%減、電力六・三%増、電気機械〇・八%増、自動車一三・八%増、建設・電販三・三%減、その他内需七・二%増。

【輸出】 電気銅輸出が〇・六%増の三万七、七九五t。銅スクラップは五・九%減の二万四、五五七t。

【輸入】 電気銅が四四・九%減の二、九五一t。スクラップは八・二%減の九、六〇二t。

【見通し】

・自動車は生産が一六・三%増。国内販売台数が前年比六・二%増。生産が七カ月連続プラス、販売も一〇カ月連続プラス。

・住宅着工の動向については、前年同月比で一・九%増と前月の微増から小幅改善なっており、下げ止まり傾向かどうか今後の動向に注目。

・伸銅品は九カ月連続プラスの前年比六・九%増。需要の多い銅条が一二月連続プラス。黄銅棒も一二月連続プラス。輸出六カ月連続プラス。今後も期待。

・電線は前年比〇・三%増の五万六、二〇〇t。輸出が一八・八%増と大幅回復。需要の多い自動車、建設・電販がそれぞれ一三・八%増、三・三%減。全体として回復傾向。

・銅輸出は前半の円安傾向から地金は増加。銅輸入は円安傾向から減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、生産は好調であるがLME価格の下落傾向を受けて断続的に売られており、市中玉は少ないのではないかと。

需要面に関しては住宅で底入れ、自動車の生産販売は好調であるが、上海在庫の急増や地政学リスクの先行き不透明感から需給は緩むのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は米国のパリ協定離脱、ロシアゲート疑惑と中国経済、環境問題の動向に左右される。パリ協定離脱に関しては、正式決定が決まれば石油、シェールガス増産からの原油などの下落などを受けて商品全体が下落する可能性あり。

ロシアゲート疑惑に関しては、即解決とはならないにしても議会で揉めるようであれば、好調なNY株にも悪影響が懸念される。

前月に続き、中国経済、環境問題に関しては鉄、銅、アルミなので、これまででない環境規制が敷かれ生産活動に弊害がでている。この厳しい取り締まりか今後も続くのかどうかに注目。

それらを踏まえた六月の銅価格は、パリ協定離脱が撤回、ロシアゲート疑惑が冤罪の可能性で、中国の環境規制が多少緩み、企業活動がこれまでとはいかないまでも動き出した場合、五月高値の五、八〇〇ドルを予測。いずれかの場合五、七五〇ドル。下値はいずれの場合も達成できなかった場合、五月一段安値の五、五〇〇ドル。

為替は、ここ最近のISによる国際テロ及びロシアゲート疑惑の動向次第。

それらを踏まえ予測は、ISによる国際テロが治まらず、ロシアゲート疑惑で米議会が混乱した場合、高値は五月後半高値一段高の一〇九円台(TTM)を予測。いずれも行われなかった場合、同安値の一四円台を予測。

銅建値に関しては六四〇〜七〇〇円程度と予測している。

◇東工取(七日前引、限月六月)

金	四、五四一円
銀	出来ず
白金	出来ず
パラジウム	三、三九三円
	出来ず